



私たちの活動のために、
ご支援・ご協力をお願いします。

①

会員になる

金額は特に決まっています。同封の振込用紙にてご支援いただける額を入金ください。
特典:壺阪寺入山料1年無料、私たちの活動を載せた会報・報告書(計年5回)等

②

壺阪寺を参拝する

境内では私たちの活動の歴史や現在の活動内容を知ることが出来る展示を行っています。
また募金活動なども行っています。ぜひお越し下さい。

③

インドの学校を訪ねる

ロパ・ムドラ学校は世界遺産タージ・マハル外国人用入場チケット売り場向かいにあります。
下記まで問い合わせの上、見学にお越し下さい。

エコ&ランドリーバッグ「SAVE!」募金やっています

現在エコ&ランドリーバッグ「SAVE!」募金をしています。「SAVE!」には、地球環境保護に少しでも役に立てればという思いが込められています。デザインは私たちが行い、製作はインド・ベンガル州にあるフェアトレード団体「アンツ」が担当し、インド北東地域に住む方々に製作依頼し、それら製作費用が彼らの生活向上の浄財にもなっています。旅行の折の、洗濯物や着替えの収納にお役に立てればと思っています。

1枚500円(送料別)で販売しておりますので、よろしくお願いします。

○お申込み方法○

郵便振替用紙に「ランドリーバッグ」×個数+送料(1つ200円)=金額を明記。

【記入例】「ランドリーバッグ」(500円)×2個+送料(200円)×2=1,400円

郵便振替口座:00980-9-116927 加入者名:(一財)アジア・アフリカ国際奉仕財団



(一財)アジア・アフリカ国際奉仕財団
Asia Africa International Voluntary Foundation

2014年度活動報告書
Annual Report 2014



目次

- (一財)アジア・アフリカ国際奉仕財団とは? 1
- 活動地域と支援内容 2
- インド支援50年のあゆみ
～ロパ・ムドラ学校での支援を中心に～ 3
- ロパ・ムドラ学校での支援① 4
- ロパ・ムドラ学校での支援② 5
- 協力NGO「サンプルナ」を通じた支援活動(インド) 6
- ンゴビャ学校での支援活動(ウガンダ) 7
- カルカラでの石彫事業支援のあゆみ(インド) 8
- 奈良県内を中心とする国際理解・国際協力活動 9
- 2014年度会計報告 10



発行・お問い合わせ

一般財団法人 アジア・アフリカ国際奉仕財団
〒635-0102 奈良県高市郡高取町壺阪3番地 壺阪寺内
TEL:0744-52-3172 FAX:0744-52-3835
Email: tsubosaka@aivjapan.org
ホームページ: http://www.aivjapan.org

一般財団法人 アジア・アフリカ国際奉仕財団とは？

当財団は奈良県にある壺阪寺(南法華寺)を母体とした団体です。1970年代にインドで支援を始め、2015年で50年になります。

約半世紀の間たくさんの企業、団体、個人の方に支えられインドやウガンダで支援活動を行う事ができました。今後も引き続き息の長い支援を行っていきたいと考えています。

団体概要

正式名称:一般財団法人 アジア・アフリカ国際奉仕財団
 理事長:平岡昇修
 設立年月日:1989年11月6日
 活動対象国と地域:インド(5か所)、ウガンダ(1か所)、日本(奈良県)
 海外における主な協力団体:サンプルナ(インド ベンガルール)

主な事業内容

- 1、「開発途上地域での社会福祉、教育支援等への助成」
- 2、「開発途上地域における地域開発協力への助成」
- 3、「奈良県内を中心とする国際理解・国際交流」

年代	出来事
1965年 (昭和40年)	当時のネルー首相が日本政府とともにインド、アグラにハンセン病療養所JALMAを設立。壺阪寺はボランティアの派遣を行う。
1977年 (昭和52年)	「ロパ・ムドラ学校」設立。JALMA敷地内で1980年より校舎建設。奨学金、教材寄付、補習授業の支援を行う。
1983年 (昭和58年)	インド政府よりハンセン病支援のご縁でご協力頂き、壺阪寺に「大観音石像」をご将来する。
1987年 (昭和62年)	元ハンセン病患者の遺言による寄付をもとに、インドでのハンセン病患者救済のための団体「壺阪寺救ハンセン奉仕財団」を設立。女性患者やその家族の為の入居施設や医療従事者を育成するための奨学金事業を行う。
1989年 (平成元年)	アジア・アフリカ国際奉仕財団の設立(2013年一般財団法人に移行)。
1991年 (平成3年)	インド人画家カーマット氏と共に仏伝図等の仏画制作事業開始。
1994年 (平成6年)	ウガンダ、ンゴビャ学校の支援を開始する。
1995年 (平成7年)	「ソーシャルサービスソサエティ(SSS)」設立。南インドにて、ロパ・ムドラ学校の元校長とともに奨学金事業や現地団体と連携した障がい者、女性、貧困層の支援を開始。2011年終了。
2004年 (平成16年)	「サンプルナ」設立。SSSの事業のうち、バンガロールでの活動を担う団体として設立。
2015年 (平成27年)	インド支援50周年を迎える。

活動地域と支援内容

インド(ムンバイ)

「観音経絵図御将来国際交流事業」

インド(カルカラ)

「石彫事業による地域開発協力」



インド(ベンガルール)

「サンプルナ」を通じたNGO支援事業

- ◎障がい者支援施設支援
- ◎児童福祉施設支援



インド(アグラ)

「ロパ・ムドラ学校」

- ◎奨学金事業・補習授業支援
- ◎教員給与支援
- ◎職業訓練支援
- ◎国際交流事業

インド(ワルダ)

「元ハンセン病患者子女らへの奨学金事業」

ウガンダ(カンパラ近郊)

「ンゴビャ学校」

- ◎学校運営支援
(給食、教材費、教員給与等)
- ◎学校で暮らす生徒の支援
- ◎校舎増築支援



日本(奈良県)

- ◎啓発活動
(啓発・募金活動)(壺阪寺インド祭り)
- ◎文化交流支援
(奈良インドわらべうた交流)



インド支援50年のあゆみ～アグラでの支援を中心に～



カマラ・デシカン氏

当財団の母体となる壺阪寺がインドで支援を始めて半世紀になります。

1965年、インドのネルー首相が日本政府とともにインドのアグラという町にハンセン病療養所を設立します。その際に壺阪寺はボランティアを派遣しました。

その後、施設内にて医師の妻たちが地域の孤児らを集めて青空教育を始めます。初代院長婦人であり、ロパ・ムドラ学校の初代校長であったカマラ・デシカン氏は「読み書きができるようになることで、彼らも彼らの家族も守ることが出来る」という信念のもと指導を行っていました。これに賛同した当時の住職常盤勝憲師が校舎建設を支援し、1980年校舎ができました。

それから現在に及ぶまで、生徒の奨学金の支援だけでなく、校舎の増改築や職業訓練など様々な形で生徒や保護者に支援を行っています。

壺阪寺天竺結縁50周年記念コンサート



生徒による歌と踊り



荒井先生と合唱団

このような、壺阪寺の50年に及ぶ支援を記念して2014年12月にロパ・ムドラ学校で、コンサートを行いました。コンサートには学校の生徒や教員だけでなく、いままでお世話になった方も招待されました。日本からは当財団の関係者以外に、NPO法人音楽の森理事長荒井敦子先生やピアニストの宮川真由美さん、まつぼっくり少年少女合唱団の高校生メンバー4名らが参加しました。

コンサート前には、学校の理事であるギルダール医師の挨拶や当財団副理事長の常盤勝範から今までの感謝について述べられました。

その後生徒の踊りや歌の披露が行われ、荒井先生を中心としたメンバーによるインドのわらべうたや日本の歌をヒンディー語に訳したもの、日本のうたを披露しました。

生徒たちは一緒に歌を楽しんだあと、「剣の舞」などのピアノ演奏に興奮し、最後は立ち上がって聞き入っていました。

半世紀に及ぶ支援をこのような形で祝う事ができ、今後も息の長い支援をしていきたいと考えています。

ロパ・ムドラ学校支援報告

ロパ・ムドラ学校での支援①

「奨学金支援事業」



算数を勉強中



授業中のようす

私たちは経済的理由で学校に通う事が難しい生徒の支援として奨学金事業を行っています。今年度は幼稚園から小学8年生(日本の中学2年生にあたる)548人のうち150人に奨学金を支援しました。

ロパ・ムドラ学校に通っている保護者の多くは授業料が支払えません。私達の奨学金のほかに、学校の奨学金を受けて通っている生徒が91人、未払いの生徒も241人います。未払いの生徒は支払いができる時に払える分だけ払っています。

授業料は1か月に幼稚園で225ルピー(日本円で約427円)、1年生から5年生までが415ルピー(約788円)、6年生以上で515ルピー(約978円)です。

公立小学校であれば授業料は必要ありませんが、ロパ・ムドラ学校のある地域(ウッタル・プラデシュ州)は財政的に厳しいため教育に力を入れることが出来ません。そのためトイレなどの設備が不十分だったり、始業時間に先生が来ていないなどの問題があるため奨学金を得て私立学校に通う生徒が多いのです。また、ロパ・ムドラ学校は設立時から貧困層の子ども達への教育を行っているので、親の経済力に関わらず学ぶ意欲のある生徒を受け入れたいと考えています。

私たちは今後も奨学金事業を続けていくとともに、保護者への職業訓練を通じて授業料が払える環境を整えていくことにも力を入れています。

「補習授業支援」

今年度より、すべての先生が参加して補習授業を行っています。

今までは学校の授業が終わった後に特定の先生が残って補習授業をしていました。しかし、生徒は学校が終わると家で家族の手伝いなどをせねばならず、また家庭教師や塾などに通う事も出来ないため学校全体で支援することにしました。

現在は学業後35分程度の補習授業を行っています。



補習授業は高学年が中心

ロパ・ムドラ学校での支援②

「職業訓練事業」

学校では保護者や卒業生を中心に職業訓練事業を行っています。

これは財団職員が主体となり授業料を払えない親への小物づくり教室をしていたことをきっかけに、学校側から「政府の許可証がもらえる職業訓練コースを実施したい」という要望が出て移行したものです。

2013年より開始され18歳以上の男女が希望のコースを数か月受講し、試験に合格する事で政府の許可証がもらえます。

授業は主に生徒たちが帰った夕方に、専門の先生方によって行われています。

1、裁縫コース(テーラリングコース)

インドでは既製服ではなく、気に入った生地を購入し自分に合ったサイズで縫製してもらうのが一般的です。そのため、裁縫は仕事の需要があります。

このコースでは、子ども服やインドの女性が着るパンジャビスーツを中心に学びます。ミシンはないので全て手縫いです。もともと小物づくり教室にいた保護者達のために始めたこともあり、授業中は得意な人が苦手な人を教えるなど和気あいあいと学んでいます。

卒業後は家族の服はもちろん、近所の人の服の縫製を請け負って仕事しているとのことでした。



和やかな雰囲気の中か学んでいます

2、美容コース(ビューティシャンコース)

結婚式などの場で着付けや髪結いができる人を育成するために、2014年4月より開始したコースです。比較的若い女性が多いのが特徴です。

髪結いの他に、インドではポピュラーな糸を使った毛抜きやメヘンディというヘナ(植物染め)を使った手足への装飾方法なども学びます。

6か月かけて学び、25人の受講生のうち20人が試験に合格しました。卒業後は美容室で働いたり、独立して仕事しています。



伝統の毛抜きを学ぶようす

3、コンピュータコース

コンピュータコースは男性向けの職業訓練がなかったため、2015年度より開設予定のコースです。教室にパソコンを10台設置し2人で1台ずつ使い授業を受けます。3～4か月に渡りコンピュータの使い方やルールなど基礎的なことを学びます。

ロパ・ムドラ学校の先生方は今後コンピュータの必要性を考え、将来的に学校の生徒も授業の一環として学ばせたいとのことでした。



コンピュータルーム

サンプルナを通じた支援活動

サンプルナはインド南部ベンガルールという都市で活動している私たちの協力NGOです。私たちはサンプルナを通じて奨学金事業、現地NGOへの支援活動を行っています。

1、奨学金事業

今年度も5人の生徒に支援を行いました。生徒は小学校や中学校に通っています。生徒の両親は小さな店で縫製をしたり、病気のために仕事に就けず年収が100,000ルピー(日本円で190,000円程度)しかなく、学校に通わせることが難しい人たちです。今年は5人で120,000ルピー(約230,000円)の支援を行いました。

2、障がい者支援施設運営NGO「マルガダルシ」

マルガダルシは障がいのある女性が共同生活している施設です。地方の村から施設に入所し、大学などに通っています。

今年は30,000ルピー(約57,000円)分の生活用品を支援しました。

3、女性障がい者支援施設運営NGO「プリラナ」

プリラナは障害がある女性(特に視覚障がい者を中心)に支援を行っている団体です。主に村出身の10代の女性で、結婚や就職などで生きづらさを感じている人たち120人が共同生活を行っています。彼女たちは、職業訓練やカウンセリングを受けながら村に戻って自立を目指します。今年は40,000ルピー(約76,000円)の支援を行いました。



集合写真

4、児童福祉施設運営NGO「スバルシャ」

スバルシャは児童福祉施設を複数運営しているNGOです。その中で現在、26人の女子と1人の男子が暮らす施設を支援しています。

子どもの両親も学校に通えなかった人が多く、安い賃金の仕事にしかなかったり、10代のうちに結婚しています。そのため兄弟が多く、その兄弟も他の施設で暮らしていたり、学校に通っていなかったりという事もあります。

そんな中、施設で暮らす子ども達は共同生活をしています。施設で暮らすことで衣食住の心配をすることなく、学校に通う事ができます。また、施設で踊りや絵画を習う事ができます。職員が訪問した際も英語で将来の夢を語るなど、積極的な態度に驚きました。

今後も引き続き支援をしていく予定です。



屋外行事にて

ウガンダ ンゴビヤ学校支援報告

1、学校・支援概要

ンゴビヤ学校(正式名称:MSGR ALOYSIUS NGOBYA MEMORIAL PRIMARY SCHOOL)は1989年に教師らのグループがウガンダの首都カンパラ近郊のスラム街に建てた学校です。ンゴビヤというのはウガンダで有名な教育者の名前です。

当初は30人で始まった学校も、現在は就学前のプレスクール(2学年)から小学校7年生(ウガンダの小学校は7年生まであります。)まで257名(男子:127名、女子:130名)が通っています。ただ、生徒の中には親の仕事を手伝ったりする必要があるために毎日通う事ができる生徒は少なく、いつも通っている生徒は100人ほどです。午前中は低学年の3年生までが勉強し、4年生以上は午後授業をしています。お昼には給食を提供しています。また毎年6月には「スピーチデイ」を行い、地域の人たちに歌や踊りを披露するなど行事にも力を入れています。

私たちは1995年より学校の運営費や備品の購入、給食費等として約2,000ドル(日本円で約230,000円)支援しています。この中には、DVなどにより家庭で暮らす事が難しい子ども達が学校で生活するための養育費も含まれています。

2、校舎増築工事について

学校スタッフより長年教室を増築したいという要望がありました。生徒数に比べて教室の数が少なく、午前午後に分けて授業をしないといけないという事と、学校がスラム街の道路に面しており、門や塀もないため安全上の心配があったからです。

そこで、2015年2月より1,700ドル(約200,000円)を支援し、校舎の増築事業を行いました。(4月末に完成)校舎が増えると新しい生徒を受け入れることが可能になるだろうとスタッフは話していました。



学校運営スタッフの2人(増築前)



新校舎の前で



給食を食べるようす



手前が新校舎

カルカラでの石彫事業支援とあゆみ

私たちの活動の大きな柱の一つに「開発途上国における地域開発協力への助成」があります。これは、インド南部にあるカルカラという町で石彫事業を行う事により、地域雇用を生み出し地場産業を発展させたいという目的のもと実施しています。

約40年前、私たちの法人の母体である壺阪寺はアグラでのハンセン病支援のお礼として、インド政府より南インドのカルカラという土地の石を頂きました。カルカラというのは「黒い石」という意味で、名前に石が付くように石材が採れる地域です。そこで「この石から観音様を彫り、お寺にお迎えしよう」と考え、1977年より大観音石像事業を開始しました。

町もない場所でしたがこの事業のためにインド中から石工が集まり、マイソール大学名誉博士R・G シェノイ氏に監修して頂き、述べ7万人もの人たちによって大観音石像事業を行いました。当時は機械もなく、全て人の手で作業が行われていました。そのころから現在も働いている石工のタンガラージ氏は「住職らとともに寝食を共にし、一から仕事を覚えた。家族も養う事ができ、感謝している」と述べています。

その後当財団が設立されてからは壺阪寺の事業を引き継ぎ、支援を行っています。多くの石工は独立し、現在は石工の技術者5名と管理者1名を支援しています。

現在カルカラは人口約3万人の町になり、石工の事業を行っている工場のそばには小学校もできました。現在はその小学校にも棚などの学用品の支援を行っています。



カルカラの石切場



当時の住職とシェノイ氏



仕事中のタンガラージ氏



支援を行った学校にて

奈良県内を中心とする国際理解・国際協力活動

私達の事務所は奈良県にあります。そこで、奈良県を中心として国際理解・国際協力活動を行っています。年に1回「壺阪寺インド祭り」としてイベントを開催したり、境内において活動報告のポスターや募金活動を行っています。

1、壺阪寺インド祭り

2014年11月2日、壺阪寺境内において「壺阪寺インド祭り」を行いました。あいにくの曇り空でしたが、450人の方にお越し頂きました。中にはインドの民族衣装であるサリーやパンジャブスーツを着てこられる方がいたり、大学生のゼミグループがNGOの活動を知る勉強のために来ていました。

当日は活動報告や、インド映画「きっと、うまくいく」の上映などを行いました。映画はインドの教育問題を取り上げたコメディで、映画を通じて普段私たちがインドで活動するにあたって感じる日本との違いや、貧困によって教育を受ける事が難しい現状などを知ってもらう事ができたと思っています。

また、インド物品バザーや募金を行い153,185円集まりました。この収益はインドでの教育支援活動などに使用させて頂きました。



副理事長による活動紹介

2、境内での広報活動について

壺阪寺境内では、私たちの活動を紹介したり募金活動を行っています。今までの経緯や活動地域、活動内容を紹介しています。



展示のようす

3、奈良まつぼっくり&ロパ・ムドラ学校 わらべうた交流

奈良県内を中心に活動しているNPO法人音楽の森が中心となり、ロパ・ムドラ学校においてわらべうたを中心とした音楽交流を続けています。

今年度は12月に行ったコンサートの前に、まつぼっくり少年少女合唱団の子ども達が作った自己紹介や日本を紹介するボードを届けるなどし、お互いの文化理解の手伝いを行いました。



合唱団メンバーが作ったボード

2014年度会計報告

2014年度も皆様からの多大なるご支援、ご協力頂きありがとうございました。決算を行い、2015年5月25日に監査役吉澤廣に確認いただいたことを報告します。

収入の部

区分	金額
正会員受取会費	536,600
受取寄付金	4,283,693
募金収益	384,065
利息受取配当金	1,079,714
合計	6,284,072

支出の部

区分	金額
①開発途上地域での社会福祉・教育支援等への助成	2,515,550
②開発途上地域における地域開発協力への助成	395,752
③奈良県内を中心とする国際理解・国際交流	1,663,947
④①～③を複合した活動※	2,772,129
法人会計	323,145
合計	7,670,523

※たとえば、①と②に係るようなまたがった事業に係る費用の場合④に計上しています。
※収支の不足分は過去の余剰金より補填。

各支援地支援経費内訳

支援地	支援内容	金額(円に換算)
インド・アグラ ロパ・ムドラ学校	奨学金事業	240,000
	補習授業支援	144,000
	職業訓練	60,000
	教員給与補てん※1	823,920
インド・ベンガル サンプルナ	奨学金事業	240,000
	NGO支援	200,000
	サンプルナ事業費	160,000
インド・ワルダ	元ハンセン病患者子女教育支援※2	60,000
ウガンダ ンゴビヤ学校	学校運営支援	280,359
	校舎増築支援	204,000
合計		2,332,359

※1 職員の給与はサンプルナを通じて支援しました。※2 継続支援の生徒で今年度不足分のみ支援しました。

